

内場ダム水質測定結果(平成元年度)

Water Quality Data of Naiba Dam

冠野 禎男 藤田 久雄 久保 正弘
 Yoshio KANNO Hisao FUJITA Masahiro KUBO

はじめに

閉鎖性水域における富栄養化は、藻類の異常発生等の内部生産を引き起こすため、大きな問題となっている。特に湖沼の水質は、全国的にも改善が進んでおらず、水質の悪化が懸念されている。

従って、本県では、県内最大の湖沼である濃濃池及び2番目の府中湖において水質の常時監視が行われているとともに、その水質のシミュレーションが解析されている。

しかし、3番目の湖沼である内場ダムにおいては、常時監視が行われておらず、富栄養化現象に関する基礎的データが不足しているため、平成元年度に水質調査等を実施したので、その結果を報告する。

調査方法

1. 調査期間

平成元年4月～平成2年3月(1回/月測定)

2. 調査地点

(1) 内場ダム……3地点(3層) (3) 流入水……5地点

- | | |
|--------|-------|
| ① 北部上層 | ⑪ 流入水 |
| ② 北部中層 | ⑫ 内場川 |
| ③ 北部下層 | ⑬ 小出川 |
| ④ 中部上層 | ⑭ 奥湯上 |
| ⑤ 中部中層 | ⑮ 小出上 |
| ⑥ 中部下層 | |
| ⑦ 南部上層 | |
| ⑧ 南部中層 | |
| ⑨ 南部下層 | |

(2) 放流水……1地点

- ⑩ 放流水

3. 試水の前処理及び保存

一般項目については、採水当日中に分析した。溶存態の項目については採水当日、450℃で2時間加熱処理し

たワットマンGF/Cを用いてろ過した。D-Si, Ca, Mg, Fe, Mn etcは4℃で冷蔵、VB₁₂, PO₄-P etc.は凍結保存し測定用試料とした。

4. 測定項目及び測定方法

測定項目及び測定方法は表1に示すとおりである。

表1 測定項目及び測定方法

測定項目	注	測定方法
流量		電気流量計による直接観測法(東邦電探CM-1BD型)
気温	①	ガラス製棒状温度計
水温	①	サーミスター温度計(東邦電探ET-50型)
pH	①	ガラス電極法(堀場pH METER F-16)
DO	①	ウインクラー・アジ化ナトリウム変法
COD	①	酸性過マンガン酸カリウム(100℃)法
濁度	③	ポイック積分球式濁度計(日本精密光学㈱SEP-PT-501D)
透明度	②	セッキン円板法
Cl ⁻	③	硝酸銀法
T-N	④	オートクレープ・ペルオキシ二硫酸カリウム分解法で分解後銅カドミウムカラムカラム還元法による
T-P	④	オートクレープ・ペルオキシ二硫酸カリウム分解法で分解後モリブデン青吸光度法による
NH ₄ -N	②	インドフェノール青吸光度法(TECHNICON Auto Analyzer II)
NO ₂ -N	②	ナフチルエチレンジアミン吸光度法(TECHNICON Auto Analyzer II)
NO ₃ -N	②	銅カドミウムカラム還元法(TECHNICON Auto Analyzer II)

測定項目	②	測定方法
PO ₄ -P	②	モリブデン青吸光光度法 (TECH-NICON Auto Analyzer II)
Chl-a	②	蛍光光度法 (HITACHI F-4000)
D-Si	③	モリブデン青吸光光度法 (島津 UV-240)
T-Fe	③	1, 10-フェナントロリン吸光光度法 (島津 UV-240)
D-Fe	③	"
T-Mn	③	原子吸光光度法 (HITACHI原子吸光180-50形)
D-Mn	③	"
Ca	①	"
Mg	①	"
D-VB ₁₂		バイオアッセイ法 (L. leichmannii)
沈 澱 量	⑤	自然沈澱法

① JIS K 0102 ④ 環境庁告示
 ② 湖沼環境調査指針 ⑤ 海洋観測指針
 ③ 上水試験法

調査結果

表2～表16に示すとおりであり、ダム内のT-PとT-Nの濃度比は年平均値で、P:N=1:71～99となっていることから、リンがプランクトン増殖の栄養塩であると推定される。ダム内のT-N濃度は、湖沼の環境基準であるV類型の1mg/lを超えており、流入水の濃度とほぼ同じである。降水時に流入するPO₄-Pは直ちに消費され、ダム内ではほとんど検出限界未満となっている。従って、T-Pの流入負荷量増加は、急激な内部生産の増加につながると考えられ、水質汚濁の進行が懸念される。

